

暮らしを楽しく快適にするリフォームマガジン

DAIKEN
REFORM
MAGAZINE

ダイケンリフォームマガジン



収納が足りないときの救世主・床下収納。 スライド式や、2階・廊下・個室に使えるタイプも！

何かとスペースが限られることの多い日本の住宅事情では、常に収納に関する問題がお困りごとの上位に挙げられています。

最近では、家で過ごす時間が長くなり、自炊や在宅勤務のために、調理道具や食品、仕事道具など家の中に何かともものが増え、収納スペースが足りないというご家庭も多いのではないのでしょうか？

戸建住宅の場合、増築せずに、また生活スペースを減らさずに収納を増やすには、屋外に物置を設置することも考えられますが、どうしても家の中に置いておきたいものもあります。

そんな場合、有効な選択肢のひとつといえるのが床下収納の設置です。

床下収納は、日ごろは目に触れない床下のスペースを活用した収納ですから、見た目もスッキリとし、生活スペースに影響することはありません。

一方、なんとなく使いにくそう、何をしまっいいかわからない、といったことから、床

下収納を敬遠している人もいます。

そこで、今回は、床下収納を設置することでのメリットやデメリット、有効活用方法、収納するのに適したものについてご紹介し、DAIKENの各種床下収納の特長や魅力もお伝えします。

あると便利？ 床下収納のメリットとデメリット

まず、床下収納の主なメリットとデメリットを紹介します。

【メリット】

- ・人目につかない収納場所として使える
- ・生活空間を消費せずに収納が増やせる
- ・床下点検口として使用できる

必要だけ目立つ場所に置きたくないものを、生活空間の邪魔にならない場所にしまえるのが床下収納の大きなメリットです。

一方で、このようなデメリットも考えられます。

【デメリット】

- ・出し入れの際、かがんだ姿勢でものを持ち上げるのが大変
- ・フタの開け閉めが面倒で、しまったものを忘れがち
- ・温度変化と湿度の影響を受ける

ただ、デメリットについては、何を収納するかなど、対策することによって解決できるものもあります。

そこで次項では収納するものについて考えます。

床下収納には何を収納するのがベストか



まず、床下収納にしまうのに向いているものですが、下にかがんで重いものを出し入れするのはたしかに大変ですし、この動作を頻繁に行うのも面倒です。

これを逆に考えると、床下収納に向いているのは、このようなものではないでしょうか。

【収納に向いているもの】

・軽くて、かさばるもの

トイレトーパーやティッシューパー、スポンジなどの買い置き分など

・日用品のストック

洗剤や調味料の詰め替え分、缶詰などの保存食品など

・ひんぱんに出し入れしないもの

漬物、梅酒、ホットプレート、カセットコンロ、土鍋、湯たんぽ、かき氷機、重箱、季節用品など



【収納に向いていないもの】

- ・重いもの
- ・頻繁に出し入れが必要なもの
- ・消費期限が短い食品
- ・湿度、温度に影響されやすいもの（皮革製品、衣類、書籍、精密機器など）

防災グッズや非常持出品はできれば玄関近くに置きたいものですが、収納スペースがない場合は床下収納を活用できます。

床下収納内に湿気がこもらないようにするは、除湿剤を入れておく、底に新聞紙（吸湿効果がある）を敷く、晴れた日にフタを開けて換気することなどで対策できます。

加えて、床下収納にものをしまうときは、上から見てわかりやすいようにするのが整理のコツです。

高さがあるものや長いものは立ててしまうのがいいですが、自立しないものは書類ケースなどを活用して収納しましょう。

小さめのものは持ち手のあるカゴに入れる、内容量が多いものは小分けにするなどすれば、取り出しやすくなります。

出し入れのしやすさを重視するのであれば、底が浅いタイプの床下収納を選ぶ手もあります。

収納力抜群のスライド式に2階にも設置できるタイプも！

床下収納にご興味がある方におすすめしたいのが、DAIKENの『床収納』シリーズです。



まず紹介したいのが、ベーシックなタイプの『床収納 44 型[深型 (1 階用)]』です。2×2 尺、2×3 尺、2×4 尺と3つのサイズバリエーションから選べるのが魅力で、置きブタのコーナー部に樹脂キャップを使用することで安全性にも配慮しています。



より多くの物を収納したい場合は、床下で複数の収納ボックスを連結させるタイプの床下収納『スライド式 52 型』があります。

床上に必要な開口部はボックス 1 つ分だけですが、床下のボックスは 3 つまで連結させることができ、とても省スペースな収納といえます。

開口部でボックスをスライドするだけで、連結された収納ボックスが次々にあらわれます。

『スライド式 52 型』のボックスは 160 リットルと 240 リットルのサイズをご用意。通常の 2 倍、3 倍の大容量の収納を床下につくることができます。



床下収納ではフタの開閉が面倒という方もいると思いますが、『スライド式 52 型』のフタは自立式で、バネの働きにより少しの力で簡単に開閉できるのも大きな魅力です。



DAIKEN では、フタに断熱材を採用し、高気密・高断熱を実現した『高気密・高断熱 61 型』もご用意しています。

外気をシャットアウトするので、床下からの冷気やすきま風の侵入を抑え、足元の冷え込みも軽減してくれます。

2013 年改正の省エネルギー基準をクリアした製品で、一般的な床下収納に比べて省エネ効果も期待できる床下ユニットです。



また、浅型の床下収納を考えている方には、『床収納 44 型[浅型 (1・2 階兼用)]』がおすすめです。

深さが内寸およそ 30cm のため女性やお子さんでもラクに出し入れができ、2 階への設置も可能です。収納力に不安があるかもしれませんが、浅型では、80、130、160 リットルの 3 つのサイズが揃っています。

ビール大瓶にすると、それぞれ 30、45、60 本分とかなりの収納スペースを確保できる、使い勝手の良い床下収納です。

生活空間に余裕を生み出せる床下収納は、うまく活用すれば非常に便利な収納です。

「家に収納が足りない。でも収納をつくるスペースもない」とお困りなら、ぜひ、DAIKENの『床収納』シリーズの導入をご検討ください。